

[A] 欧米列強の接近

		諸 外 国 の 接 近	幕 府 の 対 応
(寛政の改革) 家	松平定信 1792年 <b>ラ(ッ)クスマン</b> (ロシア使節) が <b>根室</b> に来航 → 1798年 <b>近藤重蔵</b> の蝦夷地派遣 (最上徳内と共に派遣) エカチェリーナ2世の命で、漂流民の <b>大黒屋光太夫</b> を送還 →ロシア漂流記を桂川甫周が『 <b>北國開略</b> 』に記録 根拠島に「大日本恵登呂府」の標柱を立てる ★東蝦夷地直轄(1799) → <b>箱館奉行</b> 設置(1802)	1804年 <b>レザノフ</b> (ロシア使節) が <b>長崎</b> に来航 → 1806年 <b>文化の撫恤令(文化の薪水給与令)</b> ラクスマンに交付した <b>信牌</b> (長崎への入港許可証) を持参 (文化3年) 漂着した外国船に薪水・食糧を与える ★西蝦夷地直轄(1807) → <b>松前奉行</b> 設置(1807)	
	1808年 <b>フェートン号事件</b> (イギリス) ナポレオン戦争の余波を受け、イギリス軍艦フェートン号が オランダ船を追って長崎に侵入 → <b>松平康英</b> (長崎奉行) が自害 →★イギリス船が宝島(薩摩)・大津浜(常陸) に上陸(1824) → 1825年 <b>無二念打払令(異国船打払令)</b> (文政8年) 清・朝鮮・琉球・オランダ船以外の外国船の撃退を命じる ただし、 <b>オランダ船は長崎以外では撃たれる</b>	1808年 <b>間宮林蔵</b> の権太調査 → <b>シーボルト</b> が命名 権太が島であることを確認(間宮海峡を発見)	
	1811年 <b>ゴロー(ウ)ニン事件</b> (ロシア) 国後島を測量中のゴローウニンを抑留 ★『 <b>日本幽囚記</b> 』 →ロシアは報復として <b>高田屋</b> 兵衛を抑留(のち両者釈放) 1837年 <b>モリソン号事件</b> (アメリカ) → 1839年 <b>蛮社の獄</b> (幕府の措置を批判した洋学者を処罰) 同年に大塩 <b>モリソン号</b> が漂流民の送還・日本との通商を求めて来航 平八郎の乱 → <b>浦賀</b> (相模)・ <b>山川沖</b> (薩摩) で砲撃 高野長英『 <b>戊戌夢物語</b> 』 渡辺華山『 <b>慎機論</b> 』 小関三英(連坐を恐れて自殺)	1841年 軍事改革(高島秋帆を招き西洋砲術を採用) 1842年 <b>天保の薪水給与令</b> (文化の薪水給与令に戻す)	
(大御所時代) 家 水野忠邦 1840年~アヘン戦争(イギリスVS清) 1842年 <b>南京条約</b> (清はイギリスに香港を割譲) → 1842年 <b>天保の薪水給与令</b> (文化の薪水給与令に戻す)	1844年 <b>オランダ</b> 国王 <b>ウィレムII世</b> の開国勧告 12代将軍 <b>徳川家慶</b> に勧告 1846年 <b>ビッドル</b> [アメリカ東インド艦隊司令長官] が <b>浦賀</b> 来航 アメリカは <b>アジアに捕鯨のための港</b> がほしかった 1853年 <b>ペリー</b> [アメリカ東インド艦隊司令長官] が <b>浦賀</b> 来航 (嘉永6年) 4隻の「黒船」(旗艦=サスケハナ号)を率いて開国を要求 → <b>久里浜</b> に上陸し、 <b>フィルモア</b> [米大統領] の国書を提出 ★ <b>阿部正弘</b> は開国要求に対し大名・幕臣に対応を諮問 1854年 ペリーが軍艦7隻を率いて再来航 → 1854年 <b>日米和親条約</b> (→のち、英・露・蘭とも締結) ★『 <b>日本遠征記</b> 』(ペリー艦隊の日本遠征記録) ①人材登用 <b>徳川斉昭</b> [海防参与]・ <b>川路聖謨</b> [海防掛・勘定奉行] ②国防強化 大船建造禁(武家諸法度の規定)の緩和(P38へ) ③洋式訓練 <b>講武所</b> (江戸で武術訓練)・ <b>海軍伝習所</b> (長崎で海軍訓練) ④洋学研究 洋学所(1855) → <b>番書調所</b> (1856) (のち洋書調所→開成所) ★ <b>蛮書和解御用</b> (1811年に設置した蘭書翻訳機関)を強化 → <b>高橋景保</b> の建議(のちシーボルト事件)		
(天保の改革) 家 阿部正弘 1854年 ペリーが軍艦7隻を率いて再来航 → 1854年 <b>日米和親条約</b> (→のち、英・露・蘭とも締結) ★『 <b>日本遠征記</b> 』(ペリー艦隊の日本遠征記録) ①アメリカ船に燃料・食料を提供する ②難破船や乗組員を救助する 伊豆③下田・箱館の開港(領事の駐在を認める→のちハリス着任) ④アメリカに片務的 <b>最恵国待遇</b> を与える	1855年 <b>日露和親条約</b> (下田で川路聖謨が締結) ①下田・箱館以外に、新しく <b>長崎</b> を開港 ②日露の国境は <b>択捉島</b> ・ <b>得志島</b> の間(権太は <b>两国雑居</b> ) 1858年 <b>日米修好通商条約</b> (→のち、英・露・蘭・仏とも締結) ★ <b>安政の五カ国条約</b> (米・英・露・蘭・仏との修好通商条約) ① <b>堀田正睦</b> (老中) が通商条約調印の勅許要求 → <b>孝明天皇</b> が拒否 ↓ 天皇の勅許を得ることで批判を緩和しようとした ② <b>井伊直弼</b> (大老) が無勅許のまま調印(違勅調印) 下田は① <b>神奈川</b> (→横浜)・ <b>長崎</b> ・ <b>兵庫</b> (→神戸)・ <b>新潟</b> の開港 閉鎖 ② <b>江戸</b> ・ <b>大坂</b> の開市(のち延期) + 箱館 ③通商は自由貿易とする(幕府は貿易に干渉しない) ④開港場に <b>居留地</b> (外国人の居住する地域)を設ける ⑤ <b>領事裁判権</b> (治外法権=外国人が在住国の裁判を受けない) 協定関稅制(関稅自主権がなく両国の協議で関稅率を決定)		
(安政の改革) 家 堀田正睦 1858年~ <b>安政の大獄</b> (井伊直弼が反対派の大名・志士らを弾圧) 橋本 <b>左内</b> (越前藩士)・ <b>吉田松陰</b> (長州で <b>松下村塾</b> を開く) 江戸で処刑 <b>頼三樹三郎</b> (頼山陽の子)・ <b>梅田雲浜</b> (若狭小浜藩士) 1860年 <b>桜田門外の変</b> (尊攘派の水戸脱藩士らが <b>井伊直弼</b> を暗殺)	[政局の転換] [南紀派] 徳川 <b>慶福</b> (紀伊藩主) 14代 <b>家茂</b> と改名 井伊 <b>直弼</b> (彦根藩主) のち大老に就任(1858) VS P53 [一橋派] 徳川 <b>慶喜</b> (徳川斉昭の子) 徳川 <b>斉昭</b> (前水戸藩主) 松平 <b>慶永</b> (越前藩主) 島津 <b>斉彬</b> (薩摩藩主)		
(安政の改革) 家 井伊直弼 1860年 <b>日米修好通商条約</b> の批准書交換 ホーハタン号(米艦) = <b>新見正興</b> [外国奉行] 威臨丸(随行艦) = <b>勝義邦</b> [海舟] (幕臣)	1860年 <b>日米修好通商条約</b> の批准書交換 ホーハタン号(米艦) = <b>新見正興</b> [外国奉行] 威臨丸(随行艦) = <b>勝義邦</b> [海舟] (幕臣)		

[B] 貿易の開始

**貿易の開始**

- ①貿易開始 1859年～
- ②貿易形態 居留地貿易 (開港場に設けられた外国人の居住地域での貿易)
- ③貿易港 1位=横浜・2位=長崎・3位=箱館
- ④貿易相手 1位=イギリス・2位=フランス  
★アメリカは南北戦争で後退
- ⑤輸出品 1位=生糸・2位=茶・3位=蚕卵紙  
★蚕卵紙はイタリア・フランスにおける蚕病の流行が背景
- ⑥輸入品 1位=毛織物・2位=綿織物

蚕の繭 → → → 生糸 → → → 絹織物  
製糸業 絹織物業

[産業の発達・衰退]

発達=製糸業 (マニファクチュア経営が発達→生糸を輸出)  
衰退=絹織物業 (原料の生糸不足が原因)

綿織物業 (安価な綿織物輸入が原因)

**貿易の問題点**

[大幅な輸出超過(問題点①)]

生産地と結びついた在郷商人が問屋を通さず、  
直接商品を開港場へ送る→江戸・国内の品不足=物価高騰

1860年 五品江戸廻送令 (重要輸出5品の江戸への回送を命じる)  
五品=雑穀・水油・繭・呉服・生糸  
but 在郷商人の反対, 諸外国から自由貿易への  
介入だとして批判され, 効果はあがらず

農村(在郷)を拠点とする在郷商人  
(諸商人)が江戸(御府内)を通さず  
開港場神奈川(横浜)へ商品を輸送  
江戸などで品不足により物価高騰  
→まずは江戸への商品輸送を命令  
=五品江戸廻送令(1860)

[金銀交換比価の相違(問題点②)]

金銀比価=日本(金1:銀5) ⇄ 外国(金1:銀15)  
→大量の金貨が流出=大量の銀貨が流入

1860年 万延小判铸造 (金流出防止のため悪貨铸造)  
貨幣の価値が下落したため物価高騰

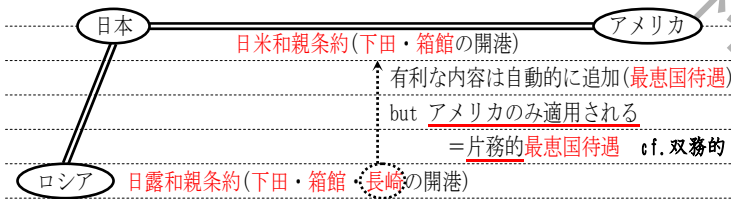
物価高騰+コレラ 流行の原因は外国人  
→天皇崇拜(尊王論)+外国人排斥(攘夷論)

[尊王攘夷運動(排外的政治運動)]

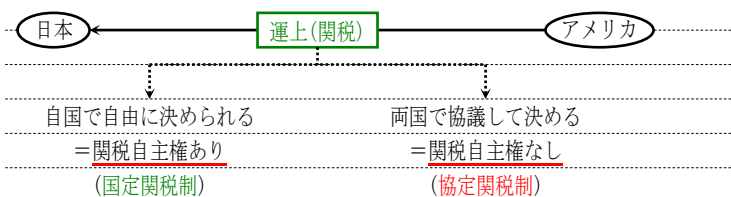
1860年 ヒュースケン (総領事ハリスの通訳) 暗殺  
1861年 東禅寺事件  
↓  
水戸藩浪士が江戸高輪のイギリス仮公使館を襲撃  
1862年 イギリス公使館焼き打ち事件  
高杉晋作らが品川御殿山のイギリス公使館を襲撃

[NOTE]

<最惠国待遇(条約締結国の一方が、条約を締結した相手国に対して、  
第三国に与えている最も恵的な待遇と同等の待遇を与えること)>



<協定関税制> 品目ごとの関税率の詳細は貿易章程に記載  
輸入関税率=平均 20% → のち 5% by 改稅約書(1866)



<貿易章程の関税率>

輸入品=0%(衣服・家財など)・5%(食糧など)・35%(酒類)・20%(その他)  
輸出品=5%(輸入品・輸出品の運上(関税)はどちらも幕府の運上所(税関)に納入)

